

【令和6年度学校運営評価】

1、評価表

- ・評価項目：8領域 38項目
- ・評価尺度：5段階 5;よい 4;ややよい 3;普通 2;やや不十分 1;不十分

2、実施者と評価領域

- ・教員：全領域
- ・管理部職員：IV、V、VI領域

3、全体の結果

令和4～6年度のカテゴリー別評価平均の推移(表1、図1)は、3年間ほぼ同じ傾向でした。令和6年度の結果をみると、平均が普通以上は、II 学生生活への支援、IV 学校経営とV 管理運営・財政が3.5、I 教育課程・教育活動とIII 入学・卒業とが3.4、VII 教職員の育成が3.0でした。また、平均が普通未満は、VIII 地域との連携が2.7、VI 施設・設備が2.3、でした。

表1: 令和4～6年度学校運営評価

評価領域	平均点		
	R4	R5	R6
I 教育課程・教育活動	3.5	3.5	3.4
II 学生生活への支援	3.4	3.3	3.5
III 入学・卒業	3.4	3.4	3.4
IV 学校経営	3.5	3.4	3.5
V 管理運営・財政	3.4	3.5	3.5
VI 施設・設備	2.4	2.6	2.3
VII 教職員の育成	2.7	2.8	3.0
VIII 地域との連携	2.5	2.5	2.7

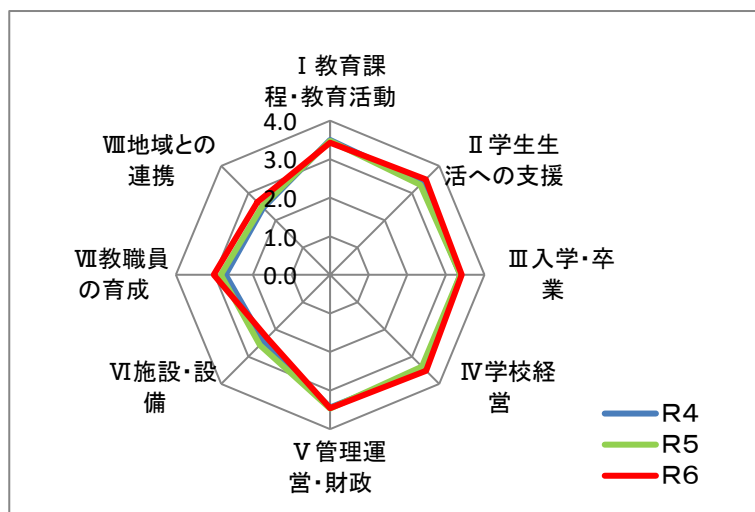


図1: 令和4～6年度学校運営評価

4、考察

新型コロナが5類に変更になり時間経過とともに世間では感染防止への対応がゆるくなってきた中で、病院等の実習のための感染防止対応の必要性を学生は頭で分かっているにもかかわらず守るのが大変のように感じました。また、令和6年度から全学年が新カリキュラムとなり、改善すべきところが見えてきた年度になりました。

教職員の学校運営評価の結果から気になる評価項目として、評価領域“ I ”の“未終了科目の対応”が昨年より0.6低かったことです。これは苦手科目の未終了者が増えたため、科目毎に対象学生に原因分析や対応策を伝えていてもそれが継続・積み重なり効果として現れにくいことが原因としてあげられます。今後、指導方法等の工夫や外部講師からの情報を学生に伝え確認し、未終了科目を出さないよう早めに対応したいと考えています。

もう一つ気になる評価領域として、昨年より0.2上がり普通になった“VII: 教職員の育成”です。これは学生・指導者・教員が同じ視点で評価ができるように、教員全員で話し合い検討し、ルーブリック評価を一部導入できたことが大きいと考えます。教員全員で課題にとり組むことが研修の還元や職場内研修とともに教員の育成に繋がることと、教員間の情報共有や共通理解の大切さを実感しました。

学生からの学校への意見・要望は、毎年実施する各学年の目標達成評価用紙の記入から、学生にとり良い結果となるものを検討し取り入れています。令和7年度は、コロナ感染が落ちついてきたことからアルバイトの許可をコロナ禍前に戻し経済面の負担の軽減を考えています。